

(2) 地形

近畿地方は紀伊半島を東西に貫く中央構造線によって北側と南側に分けられる。北側はさらに、ほぼ敦賀と明石を結ぶ線によって中国山地の東延部にあたる北西山地と、低地と高地が連続する中央低地に分けられ、琵琶湖・淀川流域は、この中央低地に位置する平野や盆地を相互に結んでいる。

琵琶湖周辺は、四方を比良・野坂・伊吹・信楽山地、比叡山、鈴鹿山脈に囲まれ、近江盆地とよばれる沖積平野となっている。琵琶湖の南部と東部には、野洲川、日野川などによって形成された湖南平野と愛知川、犬上川などによって形成された湖東平野があり、古くから穀倉地帯として知られている。一方、姉川、高時川などによって形成された湖北平野と石田川、安曇川から形成された湖西平野は、規模が小さく扇状地的な色彩が強い。

琵琶湖の湖面積は674km²、最大水深は104m、平均水深は41mで、南北長は63.5km、東西長22.8kmであり、堅田 - 守山を結ぶ琵琶湖大橋を境にして、主湖盆の北湖(616km²)と、副湖盆の南湖(58km²)の二つからなる。琵琶湖の湖底地形は極めて複雑であり、湖の南側や東側の湖底の傾斜がゆるやかであるのに対し、北側や西側では急な斜面となっている。琵琶湖の最深部は安曇川北東約2.3km沖合の地点にあり、最深線が北湖の西側に位置している。一方、南湖の水深は深いところでも4~7mと非常に浅い。

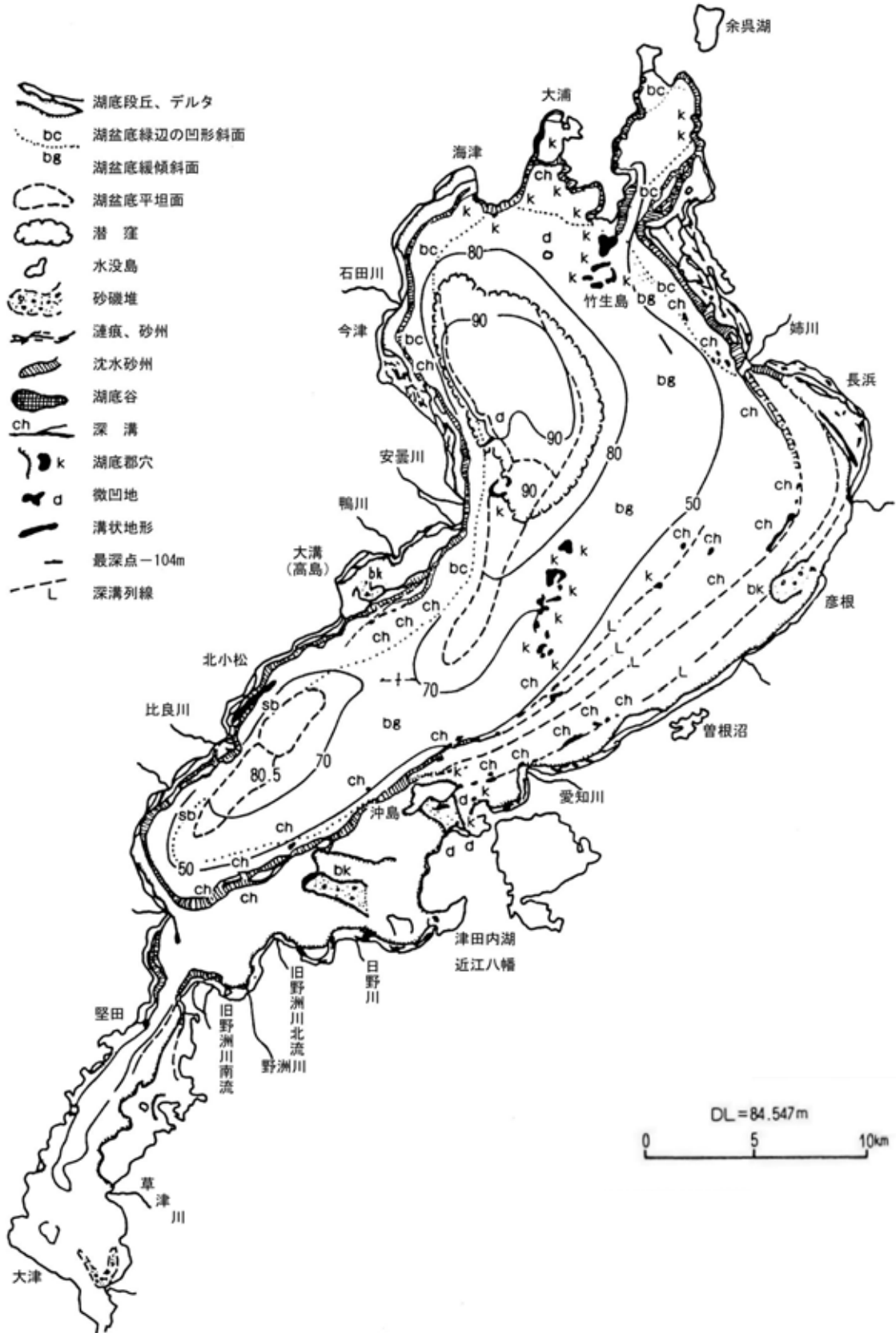
琵琶湖の水位は、かつては鳥居川水位標の±0m(B.S.L.±0)で表わしていた。「B.S.L.±0」は大阪湾の平均干潮位の+85.614m(O.P.B.+85.614m)の高さであり、大阪城の天守閣の高さとほぼ同じである。しかし、平成4年からは全国的な基準である東京湾中等潮位を基準としたT.P.+84.371m(O.P.B.+85.614m)を「B.S.L.±0」とし、片山、彦根、大溝、堅田、三保ヶ崎の5ヶ所での観測値の平均値を琵琶湖水位とした。

桂川流域は、丹波山地の東南部から流下して形成された亀岡盆地や京都盆地などからなり、両盆地の間は保津峡渓谷となっている。

木津川流域は、北を信楽高原、西を笠置山地、東を鈴鹿山地、布引山地、南を高見山地に囲まれ、これらに源を發する木津川、名張川が山間を曲流しながら、名張盆地、上野盆地を形成している。

宇治川、桂川、木津川の三川合流点より下流の淀川流域は、北西を北摂山地、南東を生駒山地に挟まれた沖積平野であり、最下流部は三角州となっている。大阪平野は淀川によって、南北に河内地域と北摂地域に分けられている。

猪名川の水源は能勢山地の大野山であり、上流域は西の伊丹段丘、東の千里丘陵など比較的低い山々に囲まれ、下流域は流送土砂の堆積による扇状地・三角州となっている。



【図1-3 琵琶湖湖底の地形学図】

出典：近畿地方建設局 水資源開発公団編「淡海よ永遠に」

【表1 - 2 琵琶湖の現代のすがた】

項目	規模等	備考
湖面積	約674km ²	滋賀県面積の約6分の1
湖岸線	約235km	東海道線の天津～浜松間とほぼ同距離
長軸	63.49km	西浅井町塩津～大津市玉野浦
最大幅	22.80km	長浜市下坂浜～高島市新旭町饗庭
最小幅	1.35km	守山市水保町～大津市今堅田(現在の琵琶湖大橋)
最大水深	103.58m	安曇川河口沖
平均深度	41m	北湖43m、南湖4m
貯水量	275億m ³	京阪神地区1,400万人の約15年間の水道用水に相当
流域面積	3,848km ²	淀川流域面積(8,240km ²)の約47%に相当
水面標高	(O.P.B.+85.614m) =(T.P.+84.371m)	琵琶湖基準水位 = B.S.L. 琵琶湖水位 ± 0m = B.S.L. ± 0m = O.P.B.+85.614m
年間平均流入水量	50億m ³	1875年(明治8年)～1996年(平成8年)の122年間平均
年間平均雨量	1,900mm	1894年(明治27年)～1996年(平成8年)の103年間平均
流入河川	121河川	一級河川の数

琵琶湖総合開発協議会「琵琶湖総合開発事業25年のあゆみ」より作成

(3) 自然環境

琵琶湖周辺は、古くから近江八景に代表されるように風光明媚なところであり、わが国で最初に国定公園に指定されている。平成12年には、滋賀県により「マザーレイク21計画」が策定され、基本方針の一つとして自然的環境・景観保全を挙げ、ビオトープネットワーク拠点の確保対策等が行われている。

また、琵琶湖・淀川水系は、日本の淡水魚類の宝庫と言われている。これは日本最大の淡水湖である琵琶湖を源流とすることや水系全体の生成の歴史が古いこと、さらに気候・風土が温帯魚類の生息に適していることなどによる。

琵琶湖にすむ生物はおよそ1,000種類にも達し、琵琶湖・淀川の固有種は、水草、植物プランクトン、動物プランクトン、水生昆虫、貝類、魚類など約50種類と多い。

このような豊かな生物資源を持つ琵琶湖において、動植物の生息環境を保全し、水産資源の再生産を確保することは非常に重要である。そのため、ヨシ群落は、自然環境の保全、湖岸の浸食の防止、琵琶湖の環境保全にとって大きな役割を果たしている。淀川にも鶴殿のヨシ原と呼ばれる面積75haの広大なヨシ群落がある。しかしながら現在は、陸地に生育する植物が進入しヨシ原の面積を減少させている。

また、淀川の河岸にはおよそ440種類にのぼる植物が見られる他、桂川沿いにある保津峡や嵯峨野の嵐山、宇治川にある塔ノ島など、上流部の優れた景観は有名な観光地となっている。



【琵琶湖(南湖)】